

科目名

特別教養(1)(ミュージアム・スタディーズ概論)

文学部

総合教育科目

科目の概要

現代のミュージアムは、コレクションをし、展示をする空間にとどまらず、ジェンダーやアイデンティティ、植民地主義など、さまざまな問題を可視化したり発信したりする役割も担っています。この授業では入門的な概論として、ミュージアムやコレクションの歴史、ミュージアムとアイデンティティの表象などについて包括的に学びます。ワークショップやグループワークも行います。

授業内容の事例

- ・見ること: 視覚と視覚性の違い
- ・ミュージアムの歴史: 驚異の部屋から近代ミュージアムへ
- ・展示のポリティクス: 見せること／見せないことの政治学
- ・所有とアイデンティティ: 大切なモノワークショップ

学生へのメッセージ

ミュージアムを知りたい人はもちろんのこと、モノが好きな人、収集が好きな人、見るのが好きな人を歓迎します。

科目名

特別教養(2)(ミュージアムと教育)

科目の概要

「ひと(来館者)」に注目し、社会教育施設としてのミュージアムの役割と課題について考える授業です。障害のある人を対象とする教育プログラムや(おもには視覚障害者、ろう者を対象とするプログラムを取り上げます)、移民など海外ルーツをもつ人を対象とするプログラムなどの検討を通じて、ミュージアムが社会的包摂に果たしうる役割について考えます。

授業内容の事例

- ・来館者のプロフィール:社会的・経済的階層、教育歴などの格差
- ・教育プログラムの検討:国内外の事例分析
- ・ワークショップ:ミュージアムが制作する教材、印刷物などの分析・評価
- ・アクセス・プログラム:障害者などを対象とするプログラムの分析・評価

学生へのメッセージ

ミュージアムに興味のある人、多文化や社会的包摂をミュージアムの視点から考えたい人をお待ちしています。

文学部

総合教育科目

科目名

特別教養(3)(グローバルマイグレーション)

文学部

総合教育科目

科目の概要

世界の諸地域の国境を越えた人の移動やエスニシティの問題について学びます。様々な学問分野の研究者によって書かれたテキスト(『人の移動とエスニシティ』明石書店、2021 年)を用いることで、国境を越えた人の移動という現象を歴史的、学際的、総合的にとらえ、その上で現代社会の問題を考えます。

授業内容の事例

難民について、フランスの移民と教育、ドイツ史の中の人の移動、移民の国アメリカ、中国、東南アジアの民族問題、イスラーム圏とエスニシティ、日本人の海外移住の歴史、日本の入管法と諸問題、在日コリアンの歴史と今、多文化共生、など

学生へのメッセージ

多様な専攻の異なるバックグラウンドをもつ学生さんたちが参加しています。教員の講義を聴くだけでなく、他の人たちのいろいろな考えや意見を知るのも興味深いと思います。

科目名

特別教養(8)(移民・難民論)

科目の概要

この授業では、移民や難民の問題を、グローバルな枠組み、地域的な経済統合(連携)、深化した国家統合としての EU、日本、に焦点をあてて考えます。主に法や政策からのアプローチとなります。

授業内容の事例

グローバルな枠組みとして、ILO(国際労働機関)の条約、WTO(世界貿易機関)の GATS(サービス貿易に関する一般協定)、難民条約、移民および難民それぞれに関するグローバルコンパクトなどを扱います。授業の終盤では、現代日本の法政策を、これらの国際的な動向も振り返りながら考えていきます。

学生へのメッセージ

関連する授業である「グローバル・マイグレーション」と隔年で行っています。

文学部

総合教育科目